

芸術振

大分県芸術文化振興会議会報

— も く じ —

新しい県民文化創造のために 大分県知事 平松守彦	1
芸術の事業はどう変わるか	2
基金事業スタート・学校巡回公演	3
芸術総会、60年度の方針決まる	4
59年度決算、本年度の予算	5
第21回県芸術祭、開幕は佐伯文化会館	6
本年度芸術役員・事務局員名簿	7
連載、スバルと人(その6)記録	8

発行人・挟間正年 編集人・高塩 至

No.65 60・7

新しい県民文化 創造のために

大分県知事
平松守彦



昭和60年代のスタートの年にあたり、21世紀に向けて、大分県の独自の文化を創造しようということで、「21世紀豊の国文化創造懇話会」を去る6月26日に設置いたしました。この懇話会は、各分野の方々が考えておられる文化、大分県の古き良き伝統の中で培われたものを21世紀に生かしていくにはどうしたらよいかということと一緒に考え、関連なご議論をしていただくための場を設けたものであり

ます。この懇話会には、県内各分野でご活躍の方々にご参加していただき積極的なご意見を出していただくようお願いしました。

大分県は、いま一村一品運動やハイテク産業の誘致、ニューメディアへの対応等新しい時代を先取りした施策を進めておりますが、芭蕉の言葉に「不易と流行」というのがありますように、新しいものに対応すると同時に古きよき伝統や文化を考え、その両者がうまく調和した新しい豊の国の創造をしていくことが必要であります。そして明日を担う子供達に大分県のよき伝統、よき文化を伝えてゆくことも大切なことであると思えます。

特に、大分県にはペトロカスイ岐部や三浦梅園をはじめ先日亡くなられました野上彌生子先生など大分の県民性を代表するような強靱な意志と行動力をもった人々を輩出した文化的土壌、風土があります。これらを再発見し、その価値を見直すことも大切であろうと思えます。

私は、文化とは音楽・美術・文学などの芸術や文化財にとどまらず人間の心を高揚させるもの、人間を奮い立たせる根源的なものであると考えますので、例えば小説を読んで非常に精神が高揚する、人の話を聞いて目からうろこが落ちて人生に一つのヒントを得る、ということなども文化的なことだと考えます。

また、本年の秋には、大分市と別府市で21世紀をテーマにした日本文化デザイン会議が開催されることになっております。この会議には、文化評論家の方々など文化に造詣の深い方々において願って県民の皆様と文化について語り合ってくださいとも考えております。

本年を文化創造元年として位置づけ推進していますこれらの事業を契機とし、県民の皆様の文化に対する関心が更に高まり、その中で先に県民の皆様のご協力により6年間にわたって積立てられ、いよいよ本年度から運用が開始されている県芸術文化基金が、芸術文化のより一層の振興のために活用されますことを心から期待申し上げます。

おわりになりましたが、新しい豊の国づくりをめざして推進しております県政の諸施策につきまして、今後とも皆様のご理解とご協力をお願いしましてごあいさつとします。



児玉成弘(行動美術)

補助事業は61年度から 本年度総額1,150万円でスタート

昭和54年度から6年間にわたり積立てが行われてきた大分県芸術文化基金は当初の予定どおり目標額を達成し、いよいよ60年度からスタートすることになった。芸振加盟団体、企業、一般等民間からの1億5千万の募金と県費1億5千万を加えた3億円の基金をもとに、毎年その利息(約2千万円)で芸術文化の振興のための事業を行っていくというものである。

基金による具体的な事業については、芸振の中に組織運営対策委員会を設置して7回にわたり会合を重ねてきた(記録については「芸振」No.62P.3、及びNo.64P.5に掲載済み)が、去る5月28日に行われた芸振総会においてその内容が承認された。芸振はどう変わるのか、主な点をあげてみよう。

芸振の組織と性格

今までの芸振は、その名の示すように“芸術文化振興会議、といった各文化団体の連絡提携が主で、振興や啓蒙がその目的であった。しかし今後は、芸術文化基金の発足を受け、主体的に事業を企画・実施するほか、加盟の芸術文化団体に対して補助を行う団体となることになり、これに伴い組織や体制の強化を図ることが必要となってきた。そこで今までの組織を見直し、規約細則を大副に改正した。主な点は次のとおりである。

<1> 目的、事業内容の変更

会の目的をこれまでの各種文化団体の連絡提携から、芸術文化団体の自主的な活動の拡大促進に変更し、事業として芸術文化事業の企画推進及び各種文化団体の事業の推進援助が新たに加えられた。

<2> 常任理事制の導入

業務の遂行を能率化し、責任の所在を明確にするため常任理事制を導入した。常任理事として次の3理事を選んだ。

- ・事業担当常任理事
- ・組織担当常任理事
- ・広報担当常任理事

<3> 団体会員の資格・地位の明確化

これまで会員数1,000人を越え年間100万円以上の事業費を使う団体も、会員数6人で行事の時のみ金を出し合う団体も、加盟団体という点では同一であり、したがって団体会費も同一であった。今回加盟団体を整理し各団体の資格・地位の明確化を図った。(会費は1口2,000円)

(ア) 県単位の団体……………会費10口以上
(イ) 県単位の団体に準ずる団体……………会費8口以上
(ウ) その他の団体……………会費5口以上
ただし、大学・高校・小中学生で構成されている団体は4口以上とする。また、入会金1万円が新設された。一応(ア)の団体21、(イ)の団体12、(ウ)の団体86、学生の団体9と今年度はなっているが、今後の活動実績等により理事会で変更することができる。

芸術文化基金事業

芸振が、芸術文化基金事業を推進して行くことになり、

基金事業としては次に掲げる事業が行われる。

<1> 芸術鑑賞事業

●ファミリー芸術劇場

地域にある公共の文化施設(大ホール)を使って、親子を主に舞台芸術鑑賞の機会を与え、地域芸術文化活動の振興を図る。(県内の文化団体出演……60年度予算130万円×3ヵ所)

●学校巡回公演・展示

地域の各学校に音楽・舞踊・演劇・美術を巡回し、すぐれた芸術にふれることで芸術文化の振興と青少年の健全育成を図る。(県内の文化団体出演……60年度予算10万円×8ヵ所)

<2> 地域文化活動促進事業

●文化キャラバン

市町村における文化祭等を盛り上げるため、すぐれた芸術作品を派遣することにより地域文化活動の充実を図る。(県内の文化団体が出演……60年度予算50万円×1ヵ所)

<3> 芸振加盟団体補助事業(60年度予算428万円)

芸術文化団体の自主的な活動に対して補助を行うものであり、次に掲げる事業が対象となる。

●各団体の成果発表に対する補助

芸術文化活動の成果を広く県民に公開する展示会・演奏会等の開催。なお、団体ごとに最高限度額が決められており、左記(ア)の団体は100万円、(イ)の団体は50万円、(ウ)の団体は10万円となっている。また原則として、1団体1事業について補助の対象とする。補助事業の完全スタートは61年度からになる。

●芸術文化交流

県域を越える大規模な大会等への参加。

●刊行物の発行

広く県民等に公募して行う文芸作品等の発行。

●芸術文化活動研修

芸術文化活動指導者等の研修会・講習会の開催。国内外における研修活動への参加。

●地域文化団体活動促進

地域の特色を生かした住民参加による実技講習会、発表会等の開催

——今年度の基金事業費は、総額1,150万円となっている。また、基金事業の振興と円滑な運営を図る目的で、基金運営協議会を芸振会長の諮問機関として設置する。委員については学識経験者、行政関係職員等10名程度を委嘱することになっている。

基金事業
スタート
学校巡回公演

ナマの舞台に感激!

—県下8会場で大成功—



合唱、コールレテイツヒ(真玉小にて)

基金事業のトップを切って、7月15日(月)、16日(火)の2日間、学校巡回公演が県下8会場で行われた。

小中学生を対象としたこの事業は、日頃鑑賞機会の少ない子どもたちを、生の舞台芸術に触れさせ、子どもたちのための芸術文化の振興と健全育成をはかることが目的である。はじめての事業でもあり、会場や参加人員などでいろいろな困難はあったが、予想以上に好評で、鑑賞した小中学生は、目を輝かせて舞台に見いていた。関係の先生方や父母の声も、「来年度も引き続き実施してほしい」との要望もあり、基金事業のスタートとして大成功だったといえる。また公演をしてもらった、大分大混声合唱団・コールレテイツヒ、県洋舞踊協会の2団体も、学校の体育館や地域の公民館といった大変設備の悪い舞台の上で、熱のこもった演技をみせ、この行事への積極的な姿勢がうかがわれた。鑑賞した小中学生の、「生の舞台。の感激はもちろん、出演した2団体の「はじめてみる子どもの表情がすばらしく、こんな子どもたちの前で公演できたことはありがたい」との声に代表される、やる者への反応といった出演者側の感激も大きな収穫であったと思う。



バレエ・県洋舞踊協会(湯布院中央公民館にて)

★コールレテイツヒ(大分大学混声合唱団)

総員65人によるプログラムは、混声合唱が、赤トンボ、きん肉マン等4曲、そのあと男声、女声コーラスと続き、グループ演奏で、会場の子もたちと音楽遊びで心をひらき、最後にオペレッタ(音楽劇)「森の朝」で会場を盛りあげた。

真玉小学校では公演に先立ち児童による器楽合奏があり、香々地小学校では「動き出した県芸術文化基金」の番組のためにテレビ取材があった。各校ともオープニングに校歌をとり入れ、司会者や指揮者が機敏に交代するなど鑑賞者と一体となった演出で子どもをひしつけた。また、選曲や演出は大人たちが聴いても満足できる内容であった。国東小学校長の「礼儀正しい態度も子どもたちに大変よい影響を与えてくれたと思う」の言葉に、巡回公演の成功がうかがえる。

期日	会場	公演団体	参加人員
7月15日	真玉町立真玉小学校	コールレテイツヒ	155
"	香々地町立香々地小学校	"	320
"	天瀬町立東溪中学校	県洋舞踊協会	370
"	大山町中央公民館	"	370
7月16日	国見町立伊美小学校	コールレテイツヒ	300
"	国東町立国東小学校	"	580
"	湯布院町中央公民館	県洋舞踊協会	280
"	野津原町中央公民館	"	380

★県洋舞踊協会

笠木啓子バレエ研究所4人、後藤智江モダンダンススタジオ5人に樋口愁枯氏を加えた10人。プログラムは、①ダンス・クラシック(基本)とやくそく、②レッスンへ、③バレエ作品(ハイライト4曲)、④モダンダンス(4曲)で、洋舞協会長の樋口氏の解説でわかりやすく進められた。大山町中央公民館ではバレエ衣裳の美しさや照明効果にも感激していたが、単に踊ってみせるだけでなく、「バレエができるまで」というプログラムで、美しくみせるためには、練習の厳しさが求められるなど教育的配慮に基づく構成がすばらしかった。

60年度の方針決まる

〈芸振総会〉

文化基金スタート

来年度より完全実施へ



総会（婦人会館）

5月28日、県婦人会館にて開催。文化基金の方針が打ち出されるとあって例年になく参加者が多く、基金事業への関心の深さをうかがわせた。59年度の事業、決算の報告、承認のあと、基金事業に関連した芸振会議諸規程について審議。①芸術文化基金事業費補助金交付要綱、②芸術文化基金事業補助金交付要項、③芸振会議の規約一部改正、④同規約細則の一部改正、⑤基金運営協議会設置要綱を原案どおり承認。次に、規約に基づく常任理事の決定がなされ、事業担当常任理事に仲町謙吉氏、組織担当常任理事に中沢とおる氏、広報担当常任理事に菅久氏を選任した。そのあと60年度の事業計画、予算案を審議決定。来年度の基金の完全スタート年を見通した上での本年度の大綱を決定した。（具体的な計画はP.2、参照）

なお要望、意見として次のような事が出された。

- 基金利用の申請手続をできるだけ簡単にしてほしい。
- 運営協議会のメンバーはバランスをよく考えて選んでほしい。
- 各団体のランクづけについては固定したものでなく理事会で変更ができることの確認
- 地域文化祭の指導、現状の交換会をしてほしい。
- 資料の収集を芸振事業としてやってほしい。
- 芸術祭の開閉幕行事が片寄っているように思うが……。

また、県高等学校文化連盟会長に新たに鳴津文雄氏が就任したことに伴い、鳴津氏が芸振副会長に選出された。その他、事務局職員に一部変更があった（本年度の役員、事務局長名簿はP.7参照）。

新たに文化キャラバンなど3行事

本年度の事業

* 県芸術祭の推進 *

10月1日～11月30日を期間として、大分県芸術祭を、県、県教委、合同新聞、芸振の4者共催で催し、諸文化団体や個人、市町村文化活動を通して県民文化の振興と芸術文化の質的向上をはかる。本年度からは開幕行事を地方（佐伯市）で開催する。

* 市町村文化活動の指導 *

地域における芸術文化活動の現状や芸術祭参加行事を調査し、地域文化団体との連絡を密にする中で、地域文化協会結成の促進をはかる。

* 機関紙の発行 *

機関紙「芸振」を年4回（7月、9月、12月、3月）発行する。B5判8頁、1回500部№65、66、67、68号の予定。

* 文化年鑑の発行 *

大分県文化年鑑 1985年版を発行する。各部門別の年間活動状況、県芸術祭行事、ならびに県下の文化活動の年間のあゆみを記録。あわせて芸振加盟団体、個人の名簿、役員一覧等を掲載し、大分県における年間の文化活動の総合記録の内容をもつ。B6判200ページ800部3月発行予定。

* 基金運営協議会 *

新たに設定されたもので61年度から本格的にはじまる基金による芸振の行事を、振興させ、円滑な運営を図るための調整や審議を行う。

* 芸術鑑賞事業 *

- (1) ファミリー芸術劇場……芸振主催による新しい事業。地域の親と子を対象に優れた舞台芸術を鑑賞する目的でつくられたもの。本年度からスタートして、津久見、竹田、宇佐での開催が予定されている。
- (2) 学校巡回公演……本年度新設の事業。地域の学校を中心にすぐれた芸術を鑑賞する機会を与えるもので、本年は8地区を対象にコーラス、バレエを巡回する。

* 地域文化活動促進事業 *

文化キャラバンと称し、市町村の文化祭等とタイアップしてすぐれた舞台作品や美術作品を派遣する。本年度は三重町に劇団つみ木座を派遣公演する。

* 海外派遣研修事業 *

新規事業。国外における研修に補助金を出すもので、本年度は100万円2人を予定している。

その他、九州芸術祭、グラフィックデザイン展、九州文学賞の行事に協賛をする。

59年度決算書

収入の部

区 分	予算現額	決算額	差引増減額
補助金収入	870,000	870,000	0
県費補助金	870,000	870,000	0
会費収入	806,000	818,000	△12,000
団体会費	644,000	656,000	△12,000
個人会費	162,000	162,000	0
雑収入	307,407	309,394	△1,987
広告料	300,000	300,000	0
預金利息	7,407	9,394	△1,987
繰越金	126,593	126,593	0
合 計	2,111,000	2,123,987	△13,987

支出の部

区 分	予算現額	決算額	差引増減額
貸 金	450,000	450,000	0
報 償 費	190,000	190,000	0
旅 費	90,000	59,450	30,550
需 要 費	1,156,000	1,152,310	3,690
印刷消耗費	1,126,000	1,125,510	490
食 糧 費	30,000	26,800	3,200
役 務 費	158,000	149,900	8,100
通信運搬費	148,000	144,000	4,000
手 数 料	10,000	5,900	4,100
使用料及貸借料	13,000	11,000	2,000
予 備 費	53,000	39,760	13,240
合 計	2,110,000	2,052,420	57,580

次年度へ繰越 2,123,987 - 2,052,420 = 71,567

本年度の予算

収入の部

区 分	予算額	前年度予算額	比較増減
補助金収入	870,000	870,000	0
県費補助金	870,000	870,000	0
会費収入	1,766,000	806,000	960,000
団体会費	1,594,000	644,000	950,000
個人会費	172,000	162,000	10,000
雑収入	4,433	307,407	△302,974
広告料	0	300,000	△300,000
預金利息	4,433	7,407	△2,974
繰越金	71,567	126,593	△55,026
合 計	2,712,000	2,110,000	602,000

支出の部

区 分	予算額	前年度予算額	比較増減
貸 金	900,000	450,000	450,000
報 償 金	190,000	190,000	0
旅 費	90,000	90,000	0
需 用 費	1,156,000	1,156,000	0
印刷消耗費	1,126,000	1,126,000	0
食 糧 費	30,000	30,000	0
役 務 費	160,000	158,000	2,000
通信運搬費	150,000	148,000	2,000
手 数 料	10,000	10,000	0
使用料及貸借料	15,000	13,000	2,000
予 備 費	201,000	53,000	148,000
合 計	2,712,000	2,110,000	602,000

〈上記は芸術一般会計の予算です。基金事業会計の予算は紙面の関係で次号に掲載させていただきます。〉

平松知事と 芸術理事ら懇談

本年を県民文化創造元年としている平松県知事は、去る6月3日(月)午後5時半から大分市西鉄グランドホテル由布の間に芸術理事ら25人を招き、所属の活動状況など、一人2分程度の説明、意見を聞いた。

出席者・扶間正年(芸術会長) 浜田九一郎(美協会長) 鳴津文雄(高文連会長) 宮崎豊(元美協会長) 小長久子(県民オペラ会長) 田村卓夫(芸術監事) 遠藤山(三曲協会長) 大崎聡明(美協副会長) 木村成敏(文化団連絡協理事) 倉田絃文(俳句連理事) 菅久(芸術事務局担当) 伊坂香里(民踊連副会長) 友田享史(芸館長) 中沢とおる(県民演劇委員長) 中野幸和(職場音連副会長) 仲町謙吉(美協副会長) 波多野義孝(宣伝美協会長) 扶間久(合同新聞文化部長) 花柳笹之丞(日舞連代表) 樋口愁枯(洋舞協会長) 深田光壺(詩道会長・代理出席) 丸岡久(音楽友の会長) 三河尻修(二児童文化研会長) 宮崎寛一郎(合同新聞特信局長) 脇正人(美協事務局長)

県側から平松県知事、藤井教育長、岡部部長、秘書課長、文化課長など。文芸、美術、音楽、舞踊、演劇など各ジャンルからの発言はいずれも新鮮で、県芸術文化振興のため有益な意見が多かった。この意味においても参画した団体にとっても大変勉強になった懇談会であったといえよう。和気あいあいの中、約2時間半にわたるパーティーは扶間芸術会長の万歳で終了した。(カッコ内の役職は開催当時のもの)

5月30日の芸術祭運営協議会で、60年度の芸術祭開催要項が下記のように決まった。本年度から開幕行事を大分市以外でとの声を反映して、6教育事務所単位で巡回して開くことになり、本年度は佐伯文化会館で開催することが決まった。参加申込みについては8月10日まで、文化課で受付けているが、可否については、大分県・大分県教育委員会・大分県芸術文化振興会議・大分合同新聞社の四者からなる主催者会議並びに芸術祭運営協議会で諮問の上、結果を申込者に通知することになっている。

第21回大分県芸術祭

期日 10月1日(火)～
11月30日(土)

開幕は 佐伯文化会館



写真は芸術祭運営協議会

◆部 門

文芸・美術・音楽・能楽・舞踊・演劇・映画放送
児童文化・生活芸術・総合・その他

◆行事の種類

1. 主催行事……………主催者が直接主催する行事
2. 共催行事……………主催者と当該主催団体が共催する行事
3. 参加(特別参加)行事……………参加規約に基づいて芸術祭に参加を希望するもので、県芸術祭運営協議会が参加行事として認めたもの
4. 協賛行事……………上記1、2、3に該当しない行事

◆実施方法

1. 大分県芸術祭運営協議会および大分県芸術祭参加規約による。
2. 参加行事および協賛行事に要する経費は、当該主催者または主催団体が負担するものとする。

3. 参加行事は芸術祭主催者の後援名義の使用を認める。

4. 参加行事については、芸術祭ポスター、プログラムに掲載する。

◆顕 彰

1. 芸術祭賞……………芸術祭行事の中で特にすぐれているもの
2. 功 勞 賞……………芸術祭の充実と発展に功勞のあったもの
3. 新 人 賞……………芸術祭の発表活動において、新人としてきわめてすぐれた発表を行ったもの
4. 特別感謝状……………芸術祭の充実と発展に貢献したものの。

◆そ の 他

参加申込みについては定められた申込用紙に必要事項を記入し、60年8月10日(土)必着として県教育庁管理部文化課まで申込むこと。

参加申込書の行事の内容については明確に記入のこと。

文化基金高額

寄附者へお礼

促進協力会総会

6月26日(木)16時から大分県市町村会館大ホールで大分県芸術文化基金促進協力会総会が開かれた。経過報告、監査報告のあと、芸術文化基金高額寄附者に対して扶間芸術振会長から個人、法人代表者それぞれ感謝状が贈呈された。ひきつづき会長挨拶のあと、平松県知事から芸術会長に感謝状贈呈、来賓を代表して知事の挨拶があり、そのあと懇談に入った。

★大分県芸術文化基金高額寄附者★

(個人) 動く美術館、工藤起左子、高山辰雄、野崎哲、野田南圃、扶間正年、平松守彦、松村三舟、溝邊有菜、宮崎豊、(法人) 旭化成工業株式会社大分工場、梅林建設株式会社、大分瓦斯株式会社、株式会社大分銀行、大分信用金庫、大分製紙株式会社、九州石油株式会社大分製油所、九州電力株式会社大分支店、株式会社後藤組、米庄石灰工業株式会社、株式会社佐伯建設、株式会社佐藤組、昭和電工株式会社、大分石油化学コンビナート、新日本製鐵株式会社大分製鐵所、住友化学工業株式会社大分工場、株式会社多田工務店、株式会社東京芝浦電気大分工場、東陶機器株式会社大分工場、株式会社トキハ、日本鋳業株式会社佐賀製錬所、別府信用金庫、株式会社豊和相互銀行、株式会社マリーンパレス、南九州ココロラボトリング株式会社、吉村薬品株式会社、株式会社矢野組(一〇〇万円以上)

〈敬称略、アイウエオ順〉
なお、促進協力会はこの総会をもって解散した。

本年度芸振役員・事務局員名簿

役職名	氏名	団体名	住所	〒	TEL
顧問	河野 彰		大分市		
"	佐藤 義詮		別府市		
"	野崎 哲		大分市		
会長	挾間 正年		大分市		
副会長	浜田 九一郎		大分市		
"	嶋津 文雄		大分市		
"	宮崎 豊		大分市		
監事	小長 久子		大分市		
"	田村 卓夫		大分市		
常任理事	仲町 謙吉	県美術協会副会長	大分市		
"	中沢 とおる	県民演劇制作委員長	大分市		
"	菅 久	県芸振会議事務局担当	大分市		
理事	遠藤 梢山	県三曲協会会長	大分市		
"	大崎 聡明	県美術協会副会長	大分市		
"	太田 政司	大分市教委社会教育課長	大分市		
"	木村 成敏	県文化団体連絡協議会理事	大分市		
"	倉田 紘文	県俳句連盟理事	別府市		
"	伊坂 香里	県民踊連盟副会長	大分市		
"	平 俣収	県立芸術会館副館長	大分市		
"	中野 幸和	県職場音楽連盟副会長	別府市		
"	羽田 春嶽	県美術協会副会長	別府市		
"	波多野 義孝	県宣伝美術協会会長	大分市		
"	狭間 久	大分合同新聞文化部長	大分市		
"	花柳 笹之丞	県日本舞踊連盟代表	大分市		
"	樋口 愁枯	県洋舞踊協会会長	日田市		
"	深田 光壺	日本詩道会会長	大分市		
"	丸岡 久	大分音楽友の会会長	大分市		
"	三河尻 修二	県児童文化研究会会長	大分市		
"	宮崎 寛一郎	大分合同新聞文化部長	大分市		
"	宮瀬 香多士	大分合同新聞文化センター	大分市		
"	山住 久	県歌人クラブ事務局長	大分市		
"	脇 正人	県美術協会事務局長	大分市		
事務局次長	高塩 至人	県教委文化課課長	大分市		
"	塔鼻 勝人	県教委文化課主幹兼課長補佐	大分市		
"	藤原 嘉久	県層雲会 員	大分市		
"	十時 良	県美術協会 委員	大分市		
事務局職員	山村 良雄	県教委文化課課長補佐	大分市		
"	阿部 正博	県教委文化課主幹	大分市		
"	山村 憲治	県教委文化課主査	大分市		
"	辛島 光義	県音楽協会 員	大分市		
"	日名子 金一郎	県美術協会 委員	大分市		
"	本田 照昭	県立芸術会館主幹	大分市		
"	三浦 洋一	芸術文化振興会議職員	大分市		
"	笠村 由美	芸術文化振興会議職員	大分郡...		

〈事務局〉 大分市府内町3丁目10番1号(〒870)

大分県教育庁管理部文化課内 TEL 0975-36-1111 内線4272

れんさい

スバルと人 (その6)

菅 久

六回展は小野一郎、江藤明、神田千里、古川栄、菅玲子、松岡定、中条正一、小野百合子、佐藤不二男、菅秋朗、矢岡勲、渡辺賢二の十一人が入会して大世帯となったが、その中に日本画の小野一郎氏がいたことは、スバル会が洋画だけの研究会ではなく、五回入会の岩男順氏の彫刻の分野と共に領域を広げた研究グループであることを証明した。

当時小野一郎氏は丁度三十歳、東京美校日本画科卒のフレッシュユマンで、構成的な少女像をよく描いていた。洋画の中に並べてもあまり違和感を感じさせない作品であったが、アトリエに遊びに行った時など畳一面に絵皿があったり、襖(ふすま)の様な画面、火鉢の上の膠(にわか)を見て、やっぱり日本画だなあ、と珍しくながめたことを思い出す。

佐藤不二男氏は、一回きりの発表で佐伯市から上京、スバルと縁が切れた。菅秋朗氏も佐伯市だがとうとう定期展には一回も発表しなかった。父である画家菅一郎氏から頼まれて入会、顔を出さないまま退会した。その後自殺した。という噂を聞いたが、絵のことで前々から苦しんでいたのではなからうか？

さて、二十九年の第七回展になると岩尾秀樹氏の復帰、女性としては芯の強かった薬師寺ハマさんの入会、そして画期的な写真部門の登場である。幸米二、木村昌斗志、内田弘、松原朝丸各氏の参加は画家にとっても、写真家にとっても大変勉強になった。つぎの年にはコバト半平、矢田太のふたりも加らって写真部はいよいよ充実し、展覧会の合評会の時など、写真とは何か？絵と写真のちがいは何か？これから絵画はどうあるべきか？これからの写真の方向について？など、今まで話したこともなかった討論がかわされ、酒をくみかわす中で激論がにつき深夜におよんだこともしばしばであった。大分県における画家と写真家の接点をはじまりというか、両者芸術の接点を

見出したのがスバルであったといえる。第七回スバル展(二十九年五月二十五日〜三十日)トキハ五階、絵画31、彫刻2、写真13)を語る(毎日新聞より抜粋)

広瀬通秀・写真と絵が一緒に少しもおかしくない。かえって効果的だったのはうれしい。

幸米二・写真に絵画が一緒なのは県下ではじめてで絵の大きさと色彩に圧倒されるんじゃないかと懸念があったがこれならやれる。やっつけていきたい!!と痛感した。

荒木剛・やはり写真の質が良く、写真が強いからだ。写真の持つ近代的メカニズムが近代美術として問題になる。同じ機械で同じ対象を写しても人によって異なり写真にロマンがもたらされる。

函展会、二科会などにも写真があり、スバルに今度秀れた写真家四氏の参加があったことは有意義だと思ふ。

岩尾秀樹・写真だけの展覧会と違った真剣なものが見られ新しい試みとして注目される。

木村昌斗志・写真は安易だが要するに一枚の写真にも生命があるということだ。絵と同じように血みどろになつて対象をとらえない。

以上座談会の一部に過ぎないが、文中写真のことが大きくとりあげられ、見出しも「写真家の参加は有意義」とある。

(芸振常任理事)

お知らせ

芸術会館8月の主な行事予定

<美術館>

- 所蔵品展Ⅱ 7月10日(水)～9月1日(日)
- 大分県在住作家個展シリーズ'85
 - 8月6日(火)～8月18日(日)
- りぶの会展 8月6日(火)～8月11日(日)
- 大分国画写真展 8月13日(火)～8月18日(日)
- 白日会大分支部展 8月20日(火)～8月25日(日)
- 大分二紀展 8月20日(火)～8月25日(日)
- 大分自由美術展 8月27日(火)～9月1日(日)

<文化ホール>

- 青少年のための音楽シリーズ 8月9日(金)
- 第8回芸館サマーコンサート //
- 「ウィーン・モーツァルト少年合唱団」 //
- 共演・大分市少年少女合唱団
- 第8回芸館創作実験劇場 8月23日(金)
- 劇団10号線「黄昏の向こう側」

記録

芸振後援

- 第8回芸館創作実験劇場Ⅰ
 - 劇団立見席決定版「つかこうへいの世界'85」
 - 60. 7. 6 芸術会館
 - ミュージカル佐耶馬台女王卑弥呼
 - 県民演劇 60. 7. 19 芸術会館
 - 60. 7. 28 宇佐文化会館
- 第16回大分平和美術展
 - 大分平和美術展運営委員会
 - 60. 7. 30～60. 8. 4 芸術会館
 - シルクロード音楽の旅(4)「遙かなる平和への道」
 - 財団法人民主音楽協会 60. 8. 1 芸術会館
 - 第8回芸館創作実験劇場Ⅱ
 - 劇団10号線「黄昏の向こう側」
 - 60. 8. 23 芸術会館
 - ベネチア室内オーケストラ
 - 大分音楽友の会 60. 10. 2 大分文化会館